

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ニチイ学館	代表者	寺田 明彦	法人・事業所の特徴	生活を支援するサービスから在宅系介護・居住系介護サービスまであらゆるラインナップを揃え「トータル介護サービス」を全国で提供。その中の小規模居宅介護は「柔軟なサービス」を心がけ、在宅生活の支援はもちろんご家族の支援はもちろんご家族様の負担軽減等に努めています。日中はレクリエーション活動を中心にタイムリーに行っています。また地域に貢献できるように努めています。
事業所名	ニチイケアセンター 苫小牧	管理者	菅原 日登美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	4人	1人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者が有する能力を阻害することなく自立した日常生活を営むことが出来るよう心身ともに機能低下防止に努め支援する。	個別対応を優先にするべきであるが、人員配置不足により個別対応が難しい場合は、集団によるレクリエーション等で対応している。 業務開始前には引継ぎや記録の確認を実施し心身の状況を確認した上で業務にあたっている。	書面上や話を聞くだけではその状況判断は難しいと思われる。	人員配置が満たされ、自立支援・個別対応を考慮して、スタッフ間での情報共有を密にしながら支援体制を構築していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	転倒防止等、環境の整備、気持ちよくそのひと時を過ごしていただくよう接する。	施設内外の環境整備として考えた時に、必要な事は限られた空間での生活の工夫と考え、転倒させない為の気配りにより転倒は防ぐことができている。 外観的には入りづらい印象があり、どう改善するかを検討を要する。	外観的に介護施設として分かりづらい。看板の工夫をしてみてもどうか？ 事業所内を通過して奥の部屋に行くのが行きづらい。	介護事業所であることが分かるような3ヶ所の入り口の工夫や、地域版のパンフレット添付を検討する。
C. 事業所と地域のかかわり	ボランティア、町内会、見学者の受け入れを広げ、有意義な時間、交流・意見交換を出来るようにする。	行事等でボランティアの受け入れを積極的に実施している。今後も継続して、よりボランティアを通して事業所としての取組みの周知が必要。	ニチイ祭り等施設の行事を地域にもっとアピールして手伝いの協力依頼や気軽に様子を見に来てもらってはどうか。 町内会（もなみ会）のお祭りの参加も勧めます。	事業所の行事案内や協力要請、地域版のパンフレット作成、地域の行事や運営への参加など今後も行い、地域の一員としての役割を担う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者とのなじみの関係がある地域住民や行きつけの商店・美容院等のかかわり、日常的に地域住民との交流を図り積極的に参加する	希望があれば今まで利用している美容院へ連れて行く支援や買い物等の支援は継続して行っている。	地域との関りが繋がられている事の確認ができた。	個々の要望に添った柔軟な対応により、地域で安心して暮らす事ができる環境作りの継続。
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域に開かれたサービスとして外部の要望、助言を踏まえた確保、地域・行政との連携・交流・情報交換等をして共有していく。	ニチイ祭り・避難訓練等の参加をして頂いた後の助言等を今後の運営に活かしている。定期的な開催は実施しているものの、ご家族や利用者様の参加には至っていない。	運営推進会議委員としては今後も継続して対応していきたい。 ご家族の出席が少ない。	利用者・ご家族の参加ができる体制づくりを構築し、利用者様の思いや意見を反映できる会議としたい。
F. 事業所の防災・災害対策	生命を守ることを優先に迅速な対応を行う。災害時に備え、「平常時の防災対策、発生時の具体的対応」を構成する。	年2回の避難訓練は事業所全体として取り組んでいるが、地震災害や津波等の具体的対応として地域の協力体制を交えた緊急連絡網作成が明確になっていない。	事業所の介護現状では災害時、至難ではないかと思う。 町内会としての関り方が分からない状況がある。	災害発生時の具体的対応が慌てずに行えるよう、町内会の防災訓練がある時は積極的に参加。津波を想定した訓練も実施し、緊急連絡網を活用できる体制にしたい。